

多発性骨髄腫研究助成 2017年度研究課題選考会総括

本研究助成事業は、骨髄腫患者さんとそのご家族、そして日本骨髄腫患者の会の活動を応援していただいている多くの方々のご厚意とご寄付により成り立っています。2002年度に始まり、本年度は第16回研究助成となります。骨髄腫診療に携わる医師や研究者にとっても、最も名誉ある研究助成の一つとなっています。責任の重さを痛感しながら「将来の骨髄腫患者さんのお役に立てる研究は何か」と、審査員一同自問自答しながら選考させていただきました。審査過程においては、上甲恭子さんをはじめ日本骨髄腫患者の会の皆様に事務的な側面から大変なご支援をいただきました。

審査委員会では、応募のありました研究課題9題について各研究の「重要性」「計画・方法の妥当性」「独創性」「波及効果」「遂行能力・研究環境」の5つの評価項目及び総合評価について、5名の選考委員により一次選考を行っていただきました。さらに、総合評価の高い応募課題に関しては審査員全員に二次審査をお願いし、最終的に1研究課題を採択させていただきました。

採択した課題は以下のとおりです。

堀之内朗記念助成 助成額 200万円

新潟薬科大学 健康自立総合研究機構 梨本正之先生

「多発性骨髄腫治療用ダブルヘプタマー型 sgRNA 薬の開発」

多発性骨髄腫の病態研究と治療薬開発は、目覚ましく進歩しています。しかし、まだまだ治癒は困難であり、一部の病型においては初回治療の効果さえ不十分です。今回応募いただきました課題は、いずれも多発性骨髄腫の克服を目指した独創性の高い優れた研究であるとともに、医師・研究者としての情熱も感じ取ることが出来ました。まさに本助成金事業の趣旨をご理解いただいた上での応募課題でありました。そのような中で、梨本先生の研究課題は、核酸医学の新しい手法を用いて骨髄腫細胞の生存に必須の遺伝子発現を制御して治療効果を得ることを目的とした基礎的な内容です。ユニークな発想に基づく研究課題であり、全く新たな治療法として近い将来臨床応用されることが期待されての受賞となりました。

病態研究、治療研究を問わず、日夜奮闘されておられる諸先生から今後も本研究助成事業に多数の応募があり、研究成果が患者のみなさまに還元されることを祈っております。

2017年3月

日本骨髄腫患者の会 多発性骨髄腫研究助成 選考委員会委員長

飯田 真介